

# ベタを塗る

なんとなく背景を終わらせたので、次はいよいよ仕上げ作業に入ります。まずは黒く塗りしたいところ……ベタを塗っていきます。このサンプルだと、長髪の女の子の髪をツヤベタ（光の当たっている部分の光沢を筆ペンの入り抜きで表現する技法）で、エリの部分をベタにしようと考えてます。

## 髪の毛のツヤベタ

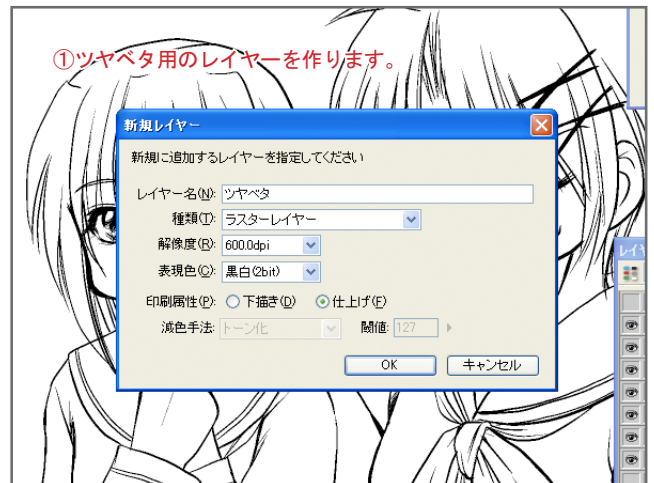
まずは、髪の毛のツヤベタをします。ベタ用のレイヤーを作って、ペンツールの「筆」を選んでツヤベタしていきます。

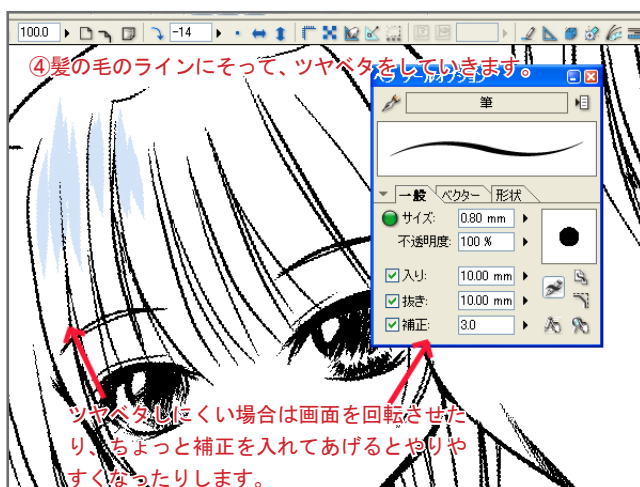
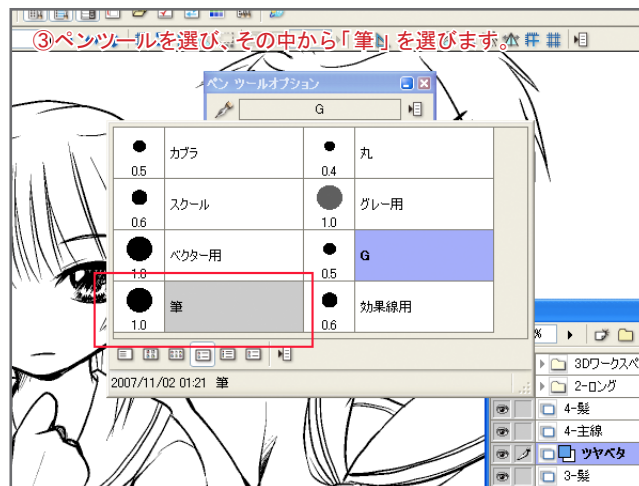
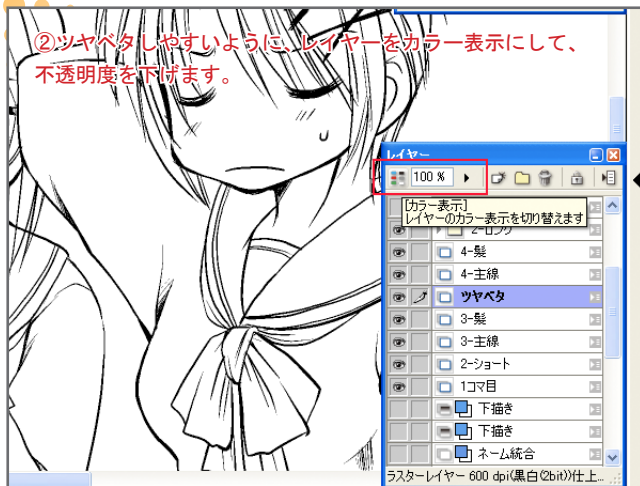
ベタ用のレイヤーは「ラスターレイヤー／600dpi／白黒(2bit)／仕上げ」で作ります。レイヤーはそのままではツヤベタする時に不便なので、表示色を変えて、不透明度を下げておきます。そうすることで、ペン入れの画像を見ながらツヤベタすることができます。このあたりはペン入れの時と同じ原理です。

次にペンツールの「筆」を選んでツヤベタしていきます。ツヤベタ用の筆の設定は、太さ0.8～1.0mm、入り抜きを10mm以上にしています。これくらいに設定すると入り抜きがしっかりついたツヤベタができます。

ペンツールの「筆」を使って髪の毛のラインにそって、ツヤベタをしていきます。ツヤベタしにくい場合は画面を回転させたり、ちょっとだけ補正をかけてみると、やりやすくなります。

ツヤベタする時に気を遣うのは光の当たっている位置。慣れればなんとなくカンでツヤを入れられますが、慣れるまでは結構大変です。そういう場合は、別のレイヤーに「このあたりに光があたってる」というアタリを描いておいて、それを意識しながらツヤベタをしていくと便利です。



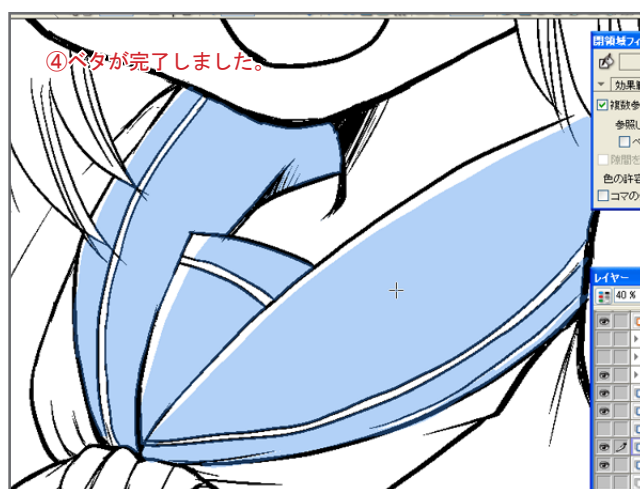
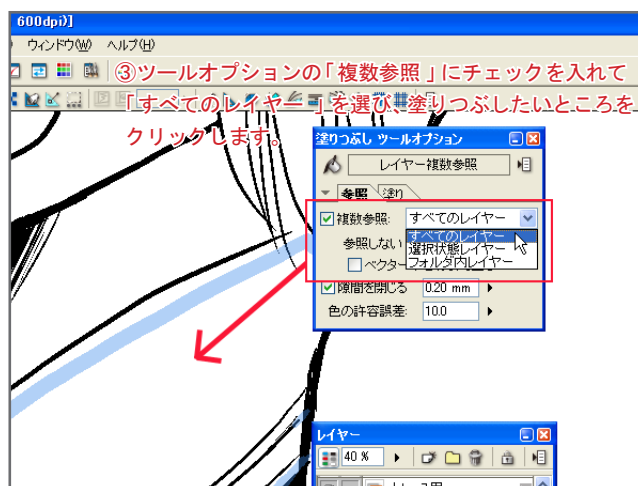
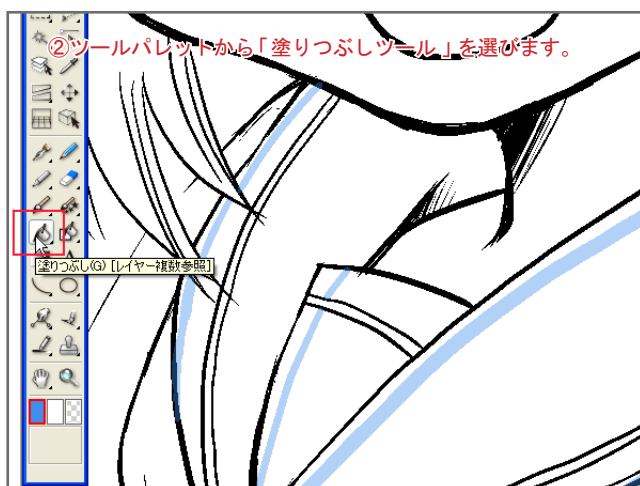


ツヤベタが終わったら、はみ出た部分を消しゴムツールで消したり、塗り残しを塗ったりしていけば、ツヤベタは完了です。ツヤベタの次は他の部分のベタを塗っていきます。

## エリのところのベタを塗る

次はエリのところのベタを塗ります。

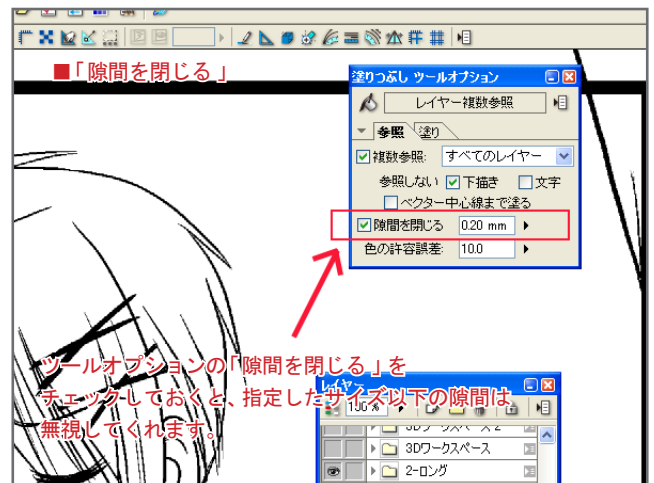
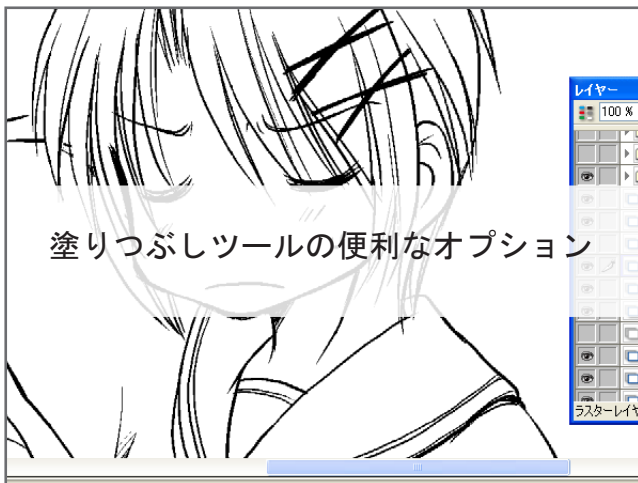
塗りつぶしは「塗りつぶしツール」で塗りたい部分をクリックすればOKなのですが、それだけだとのっぺりしてしまうので、ここはちょっとハイライトを残して塗っていききたいと思います。



ベタを塗るときは、ベタ用のレイヤーを作らないでペン入れ用のレイヤーに直に塗ってしまってもいいのですが、ベタ用のレイヤーを作って作業した方が後から修正がしやすいので便利です。

## 塗りつぶしツールの便利なオプション

ベタを塗るときに使う「塗りつぶしツール」。これには結構便利なオプションがっています。



特に便利なのが「隙間を閉じる」。

塗りつぶしツールは、線が閉じてないとベタを塗った時に線の隙間から色が漏れて他の部分まで塗られてしまうんですが、これをオンにしておくと指定したサイズ以下の隙間は無視してくれるので、隙間が空いているような所を塗りつぶしたい時に便利です。

他にも、下描き属性のレイヤーは無視して塗りつぶしができる「下描きを参照しない」のオプション。これをチェックしておくと、下描きのレイヤーに描かれた絵を無視して塗りつぶしができるので、例えば、ベタの指定とかの指示を下描きレイヤーに書き込んでおいて、それを見ながら作業したりすることができます。

塗りつぶしツールのオプションは結構便利なので、覚えておくと便利です。

ベタが終わったので次は集中線&効果線を入れてみたいと思います。